

令和元年6月23日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17133

研究課題名（和文）ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響の研究

研究課題名（英文）The study on influence which a network organization gives to overseas Chinese entrepreneur's networking and acquisition of the social capital

研究代表者

守 政毅 (MORI, MASAKI)

立命館大学・経営学部・教授

研究者番号：00434704

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響について探究する。そのため、先行研究が扱ってこなかった問題に取り組む。すなわち、ネットワーク組織の構造や活動頻度が、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワークの形成にどのような影響を与えるか、ネットワーク組織内の規範や組織活動に対して、企業家の参画・貢献を通じた信頼関係の構築が、社会関係資本の獲得にどのような影響を与えるか、という問題を明らかにする。そのうえで、ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得にどのような影響を与えるかを説明する理論構築及び実証に貢献することを本研究は意図する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、社会ネットワーク理論を理論的基盤として用い、ネットワーク組織による企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に対する影響について検討し、以下の結果を得た。連結ピン組織としての機能を有するネットワーク組織は、ネットワーク構築の度合いと組織活動の頻度は高いほど、ネットワーク組織に参加する華人企業家に対してネットワークの構造的隙間を橋渡しする、仲介の役割を果たす。会員同士が互酬的に行動する組織規範に従うことが期待されるため、企業家がネットワーク組織の組織活動に参加すると同時に、運営に参画・貢献する度合いが高いほど、信頼関係の構築による社会関係資本が獲得できることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：In this research, the influence by which a network organization gives it to entrepreneur's networking and acquisition of the social capital is explored. It is composed of two sub- themes. One is "What kind of influence do the structure of the network organization and the activity frequency have on formation of an entrepreneur network by bridging in a structural gap?" Second is "What kind of influence does building of relationship of mutual trust through entrepreneur's participation and contribution in the network organization and organization activity have on acquisition of the social capital?" This research intends to contribute to the theory construction and the proof which explain what kind of influence a network organization has on entrepreneur's networking and acquisition of the social related capital on it.

研究分野：国際経営論

キーワード：ネットワーク組織 企業家ネットワーク形成 構造的隙間 社会関係資本 中華総商会

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

社会ネットワーク(Social Network)に関する社会学分野の研究では、人と人、あるいは組織と人、組織と組織といった社会単位の繋がり方(ネットワークの構造)と、それからもたらされる利得(社会関係資本: Social Capital)を明らかにしてきた。社会の複雑性を低減するメカニズムとして信頼を捉え、それを支えるためには相互に相手の行動が自分に利益を齎すことを期待する信頼が必要で、このような互酬性が社会規範となる。社会関係資本は、社会ネットワークから得られる重要な資産であり、信頼関係の構築を基礎として、互酬的な活動によるメンバー間の協力や情報提供、精神的なサポートなどのやり取りが行われる。

経営学分野でも、社会ネットワークに関する社会学研究を応用する試みがなされ、企業家活動を中心に据え、社会ネットワークを通じた社会関係資本の獲得に着目した研究が行われてきた。しかし、社会ネットワークのどのような構造や特徴が企業家間のネットワークの構造的隙間を橋渡しするか、また、社会ネットワークのどのような働きかけを通じて企業家に対して必要な情報や資源、心理的な支援といった社会関係資本がもたらされるか、という疑問が生じる。また、企業家の社会ネットワークの構造や特徴を複合的に分析するには至っていない。そのため、社会ネットワークが企業家の社会関係資本の獲得に与える影響に関して十分に検討を行う必要が生じていた。

2. 研究の目的

本研究は、ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響について探究する。そのため、先行研究が扱ってこなかった問題に取り組む。すなわち、ネットワーク組織の構造や活動頻度が、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワークの形成にどのような影響を与えるか、ネットワーク組織内の規範や組織活動に対して、企業家の参画・貢献を通じた信頼関係の構築が、社会関係資本の獲得にどのような影響を与えるか、という問題を明らかにする。そのうえで、ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得にどのような影響を与えるかを説明する理論構築及び実証に貢献することを本研究は意図する。

3. 研究の方法

本研究は、インタビュー調査、質問票調査による統計分析という多様な方法を用いて行われる。ネットワーク組織が企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響を明らかにするためには、2つのサブ・テーマに分けて研究を進めた方が効果的だと思われる。それゆえに、研究期間の前半で「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」を分析し、後半で「ネットワーク組織内の互酬性規範・信頼と企業家の社会関係資本の獲得に関する研究」を分析する。前・後半とも以下のような方法で研究を行う。まず先行研究のレビューから命題を構築し、インタビュー調査により命題を検証する。先行研究及びインタビュー調査の結果を検討し、検証可能な仮説を導出する。導出された仮説は、インタビュー調査によりより精査して検証する。最後に、2つのサブ・テーマの分析結果の統合を図り、理論構築を図ることとする。

4. 研究成果

(1)研究成果の概要

サブ・テーマ「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」については、ネットワーク組織の構造と活動を構成する要素、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響を変化させるモデレータの抽出と、中華総商会の組織構造と活動についてのデータベースをもとに、シンガポール、マレーシア、香港の3つの中華総商会について比較する実証分析を実施した。中華総商会は、華人企業(家)と業種別組織が主たる構成員となり、華人系団体、商工団体、社会団体、政府などとの緩やかな関係を幅広く持つ。そのような連結ピン組織が、国内・海外との組織間ネットワークを形成する活動を頻繁に行って、会員企業家が国内外との組織的、個人的ネットワークを形成できるチャンネルと機会を提供している。以上の事から、中華総商会のネットワーク構築の度合いと組織活動の頻度は高いほど、ネットワーク組織に参加する華人企業家に対してネットワークの構造的隙間を橋渡しする、仲介の役割を果たすことを明らかにした。

サブ・テーマ「ネットワーク組織内の互酬性規範・信頼と企業家の社会関係資本の獲得に関する研究」では、まず日本中華総商会の事務局、ならびに世界華商大会での華人企業家に対するインタビューから、中華総商会では、会員同士が互酬的に行動する組織規範に従うことが期待されるため、華人企業家が中華総商会の組織活動に参加すると同時に、運営に参画・貢献する度合いが高いほど、信頼関係の構築による社会関係資本が獲得できるとの仮定立てることができた。他方で、複数の中華総商会を比較したり、質問票調査による統計分析による実証までは十分に研究を進めることができていない。サブ・テーマについては、2019年度に継続し

て調査研究を行う予定であり、成果がまとまり次第論文等で公表する計画である。

(2)2015 年度の研究成果

2015 年度は、「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」を進めてきた。まず、社会ネットワークと企業家活動に関する社会学ならびに経営学の先行研究のレビューを行い、ネットワーク組織の構造と活動を構成する要素、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響を変化させるモデレータを抽出するようにした。次に、中華総商会の組織構造と活動について、データベースを構築した。ネットワーク構築の度合いと組織活動の頻度を異なる複数の中華総商会間で比較するため、それらが相対的に高い香港、シンガポールと、相対的に低い日本、インドネシアとを比較できるように、整備した。実証研究の準備として、中国山東省青島市において、中国家電メーカーである海爾集団と海信集団でのインタビュー調査を行った。

それと併せて、本研究と関連した研究調査の成果を論文にまとめ、松野周治・今田治・林松国編著(2016)『東アジアの地域経済発展と中小企業』晃洋書房に、「第 6 章 日中ビジネスの深化と中小企業の中国経営」として収録された。加えて、研究成果の学術発表と社会還元の一環として 3 回の研究報告を行った。

(3)2016 年度の研究成果

2016 年度は、「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」を行った。具体的には、ネットワーク組織の構造と活動を構成する要素、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響を変化させるモデレータの抽出と、中華総商会の組織構造と活動についてのデータベースをもとに、シンガポール、マレーシア、香港の 3 つの中華総商会について比較する実証分析を実施した。中華総商会は、華人企業(家)と業種別組織が主たる構成員となり、華人系団体、商工団体、社会団体、政府などとの緩やかな関係を幅広く持つ。そのような連結ピン組織が、国内・海外との組織間ネットワークを形成する活動を頻繁に行って、会員企業家が国内外との組織的、個人的ネットワークを形成できるチャンネルと機会を提供している。以上の事から、中華総商会のネットワーク構築の度合いと組織活動の頻度は高いほど、ネットワーク組織に参加する華人企業家に対してネットワークの構造的隙間を橋渡しする、仲介の役割を果たすとの仮説を導出した。

以上の研究成果を、学術報告と論文執筆を通じて公表した。

(4)2017 年度の研究成果

2017 年度は、「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」を継続するとともに、「ネットワーク組織内の互酬性規範・信頼と企業家の社会関係資本の獲得に関する研究」に着手した。具体的には、前者については、ネットワーク組織構造と活動を構成する要素、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響を変化させるモデレータの抽出と、中華総商会の組織構造と活動についてのデータベースをもとに、日本、カナダ、インドネシアを追加して実証分析を実施した。後者については、企業家のネットワーク組織運営への参画・貢献度と、信頼関係の構築による社会関係資本が獲得との関係に関する命題を構築するため、先行研究を丹念にレビューをした。そのうえで、ネットワーク組織内の規範、企業家の組織活動への参加、参画、貢献する度合いと、信頼構築による社会関係資本の獲得への影響を複数国で比較するため、2017 年 9 月に「第 14 回世界華商大会」(ミャンマー・ヤンゴン)に参加した参与観察と、日本中華総商会の会員を中心にインタビュー調査を実施した。

(5)2018 年度の研究成果

2018 年度は、「ネットワーク組織の構造や特徴と企業家ネットワーク形成に関する研究」と、「ネットワーク組織内の互酬性規範・信頼と企業家の社会関係資本の獲得に関する研究」を同時並行的に推進した。

前者については、ネットワーク組織構造と活動を構成する要素、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響を変化させる要因を、シンガポール、マレーシア、香港、日本の 4 か国の中華総商会の組織構造と活動についてのデータベースをもとに、各中華総商会の創設経緯と設立目的、2007~2017 年の 10 年間にわたる年次目標や活動計画と、実際の活動実績を分析した。その結果、中華総商会の所在国における華人の政治的・経済的位置づけ、創設経緯と設立目的の相違に応じて、組織構造と年次目標や活動計画に関わる意思決定、ならびに実際の活動内容が影響を受けることが、また、華人企業家のネットワーク形成においては、中華総商会と他組織間の組織観関係の形成で相違が見られ、対外的な企業家ネットワークの形成において影響を受けることが明らかになった。

後者については、企業家のネットワーク組織運営への参画・貢献度と、信頼関係の構築による社会関係資本が獲得との関係に関する命題を構築するため、先行研究を丹念にレビューをした。そのうえで、ネットワーク組織内の規範、企業家の組織活動への参加、参画、貢献する度合いと、信頼構築による社会関係資本の獲得への影響を複数国で比較するため、2017 年 9 月に「第 14 回世界華商大会」(ミャンマー・ヤンゴン)での参与観察と、日本中華総商会の会員を中心にインタビュー調査を基に、分析を進めている。

両者の研究成果については、2019年中に学術論文としてまとめ、投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

守政毅、ネットワーク組織の活動による企業家ネットワークの形成に関する研究 -香港中華総商会とシンガポール中華総商会の事例分析をもとに-、九州経済学会年報 55 巻、査読あり、2017 年、149-157。

守政毅、關於通過網絡組織活動形成企業家網絡的研究 -基于香港中華総商会和新加坡中華総商会の事例分析-、キ南大学東南亜研究与華僑華人研究 90 周年記念大会国際研討会論集、査読なし、121-130。

中西一正・兵藤友博・守政毅・吉田満梨・安藤拓生、ハノイ - ハイフォン地域における日系企業 -ASEAN 企業調査(ベトナム編)-、社会システム研究 30 号、査読なし、2015 年、159-182。
<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/ssrc/result/memoirs/kiyou30/30-07.pdf>

Rolf D. Schlunze¹, Weiwei Ji, Masaki Mori and Ming Li, Does Chinese Managers' Guanxi Networking Matter to Their Managerial Success? - A Multiple-case Study from Japan, Ritsumeikan Business Journal, Vol.9, refereed, 2015, 47-63.
http://r-cube.ritsumeai.ac.jp/repo/repository/rcube/6069/BJ_9schlunze,ji,mori%20&%20li.pdf

〔学会発表〕(計6件)

守政毅、ネットワーク組織活動下の華商企業家ネットワーク形成機制：香港中華総商会和新加坡中華総商会の事例分析 (ネットワーク組織の活動による企業家ネットワーク形成に関する研究 -香港中華総商会とシンガポール中華総商会の事例分析をもとに-)、キ南大学東南亜研究与華僑華人研究 90 周年記念大会国際研討会(招待講演)、2017 年。

守政毅、カンボジアの経済発展における華人ネットワークの役割(共通論題報告「中国経済の発展と華僑」)、東アジア地域研究会・神戸華僑華人研究会合同例会、2016 年 12 月 10 日。

守政毅、ネットワーク組織の活動による企業家ネットワークの形成に関する探索的研究 -アジアの中華総商会を事例に-、九州経済学会第 66 回大会、2016 年。

守政毅、中国と東南アジアの政治経済の深化：華僑・華人ビジネス研究の視点から、国際経済研究所勉強会、2016 年。

守政毅、中国市場をめぐる日中企業の戦略比較、2015 年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナー「中国経済はどこへ～日本企業の対応～」、2015 年。

守政毅、東南アジアにおける華人ネットワーク、一般社団法人日本能率協会主催「アジア共・進化リーダーズフォーラム」、2015 年。

〔図書〕(計1件)

松野周治・今田治・林松国編著、晃洋書房、東アジアの地域経済発展と中小企業 (担当:第 6 章 日中ビジネスの深化と中小企業の中国経営)、2016 年、104-122。

〔その他〕

6. 研究組織

(1)研究協力者

研究協力者氏名：Ignace Ng(カナダ・ビクトリア大学商学部教授)

ローマ字氏名：Ignace Ng

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。